

四国 88 箇所歩き遍路第 9 回 2 日目 (以下 2 ページの写真をクリックすると拡大)

第 9 回 2 日目は 74 番甲山寺、75 番善通寺、76 番金倉寺、77 番道隆寺と 78 番郷照寺の五ヶ寺。22 キロの行程です。



弘法大師が 7 歳の時に我拝師山に登り、一生成仏を願った山の断崖から谷へと飛び降りた。すると、落下する大師の前に釈迦如来と天女が現れて抱きとめ、彼の願いが成就された。そして後年、大師が建てたのが「捨身ヶ嶽禅定」です。お堂までは非常に急な坂道を上るようですが、飛び降りた断崖はさらに上の急峻なところらしい。

宿を 6 時に出て捨身ヶ嶽に登る予定があいにくの雨。道が濡れるとお堂に行くのも難しいという女将さんの言葉で、捨身ヶ嶽のお参りは断念しました。

甲山寺を経て善通寺まで 4 キロ。寺の手前にカタパンを売る店があります。煎餅と飴の形をしたパン（乾パン？）を買って食べようとしたが、あまりに硬すぎて噛み砕けません。（時間をかけて）唾液で柔らかくしてやっと喉を通りました。

土産で持ち帰ったカタパンを私の妻は一気に噛み砕いて食べたのには驚きです。私と 4 歳しか変わらないのに、妻の歯を見直しました。



善通寺は弘法大師が生まれた寺だけあって、さすがに広い。道を挟んで西に大師堂、東に本堂があります。大師堂へは遍照金剛閣の額が架かる仁王門から入ります。



善通寺の大師堂は御影堂といい、空海はこの奥殿で生まれました。御影堂（左）と聖霊殿（右）は渡り廊下でつながれ、廊下の奥には駐車場があります。バスツアーの遍路さんは仁王門を通らず、濟世橋を渡って大師堂にやって来て、ここで記念写真を撮ることになっています。

道を隔てた東には本堂。境内には五重塔も建っています。

境内の周りには五百羅漢がずらりと並び、南大門から入ったところには、空海の誕生のおときから生えているという樹齢千数百年の大楠があります。楠は境内にある五社神社の神木でもあります。

多くの参拝者は南大門（写真左奥）から入りますが、お遍路はここを通らず、東の赤門を通過して金倉寺に向かいます。





赤門を出てすぐ左、ピルの谷間に赤門七仏薬師があって、母乳の出が良くなる乳薬師が祀られています。しかし粉ミルクの普及で参拝者が減り、昔の賑わいがないらしい。



善通寺から金蔵寺までは4キロ。本堂には大きな数珠がかかっていて、数珠を廻しながら祈ると願いが叶うといわれています。境内の散策道には七福神が置かれていて、大黒だけがないと思ったら、本堂の前に立っていました。金倉寺らしく、祈願の金箔がぺたぺた貼られています。金箔大黒でも儲けているようです。

金倉寺から道隆寺までも4キロ、道隆寺を出るとすぐに丸亀です。丸亀駅前には石垣が高さ60mで日本一という丸亀城。道隆寺から7キロ歩くと郷照寺です。



郷照寺の入口には大吉地蔵。めでたい地蔵で、願をかけたら宝くじが3000円当たったという話もありますが、可愛い顔で、福も貰えると人気の地蔵です。

郷照寺には四つの見所があるといわれています。唯一境内から眺望できる瀬戸大橋、地下道の万体観音、そして池泉回遊式の庭園(写真)と樹齢400年の日本一大きなホルトの木。

実は日本一のホルトは見る事が出来ませんでした。お寺さんに聞くと枯れてしまって切り株だけが残っているとのこと。写真の中央部に大株がありました。今は庭園の外、白堀の縁に若木が植えてありました。「ホルト」はポルトガルを意味します。実が煮ているのでオリーブの木と間違えられたこともあります。

郷照寺から3キロ、坂出駅の近くの三中井ビジネスホテルが今日の宿です。16時に到着しました。

第9回 2日目の一言日記 第74番 医王山 甲山寺(こうやまじ)



大師が毘沙門天像を巖窟に安置したのが甲山寺の始まり。周辺は大師の故郷。寺名は裏山の形が毘沙門天の甲冑に似ているから。

第75番 五岳山 善通寺(ぜんつうじ)



高野山金剛峰寺、京都東寺と並ぶ弘法大師三大靈跡。大師誕生の寺。御影堂で生まれた。善通は父の名。五重大塔がある。

第76番 鶏足山 金倉寺(こんぞうじ)



弘法の甥である智証大師はこの寺で生まれた。入山大師の名の像がある。客殿に住んでいた乃木将軍に面会に来たのに会ってもらえない妻がたたずんでいた「乃木将軍妻返し松」が残っている。

第 77 番 桑多山 道隆寺(どうりゅうじ)



奈良時代の領主、和氣道隆と桑の大木の故事から山号と寺名が。遍路の元祖衛門三郎が大師に懺悔する姿が大師堂の前に立つ。

第 78 番 仏光山 郷照寺(ごうしょうじ)



道場寺という名であったが大師が郷照寺に改名。ポックリ死を願う讃岐ポックリさんが三体並ぶ。唯一瀬戸大橋が眺望できる寺。